

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400092		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームひのき		
所在地	群馬県伊勢崎市境下湊名1473-1		
自己評価作成日	令和5年9月2日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様一人一人の状況に合ったサービス提供出来るよう考えている。 ・毎月の行事で四季を感じてもらえるよう、色々考え提供している。 ・医療連携の強化、関わりを大切に、スムーズに対応出来るようにしている。 ・利用者様の意見、希望を大切に受け止め、提供出来るようにしている。 ・季節の食材を使ったメニューを、考え提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和5年10月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍の3年間、いろいろ制限がある中で、職員は何とかして利用者に楽しく一日を過ごしてもらいたいと努力し、支援してきた。その一つが手作りの食事を提供することである。いろいろ意見が挙がったこともあったが、「やはり自分達で作ろう」と皆で決め、利用者が食べたい物を職員が作り、利用者、職員が同じものを食べている。グループホームの第一義ともいえる家庭的な食事の提供を継続することで、理念にある「笑顔あふれる生活」を具現化する取り組みが確認できた。また、外出等が思うようにできない代わりに室内で楽しめることを考え、工作等の手作りで作品制作に取り組む支援をしてきた。作品は共用空間に飾られ、利用者が個人的に作った作品はテーブルに並べられている。「自分が楽しんでいることが大切」という職員の言葉から、共に楽しんでいる様子がうかがえた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議を始める前に、ホームの基本理念を音読している。 ホーム内の目につく位置に掲示している。	職員は理念にある「笑顔あふれる生活」を念頭に利用者に寄添い、笑顔で話しかけ、日々楽しい生活を送れるよう支援に取り組んでいる。ホーム長の交代に伴って、都度事業所理念を変えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の対策を行い、慰問を行っている。 非常災害時は、区長様・民生委員様に応援の依頼をしている。	コロナ禍以前は慰問や小学生の校外学習、園児の訪問等があったが、交流は殆どなくなってしまった。現在はギター演奏の慰問や区長、民生委員が出席する会議が再開されるようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症の対策を行い、対面による推進会議を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の対策を行い、対面による推進会議を行っている。	これまでは会議議事録を送付していたが、5月より対面で開催している。利用者の現状報告、行事活動報告、月毎にテーマを決め、出席者が意見交換をし、支援や運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本社の担当者が定期的に出向き連携を図っている。必要な連絡事項は、管理者・職員にも共有している。	法人の担当者が市の担当部署に出向き、連携を図っている。また、ホーム長が認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを基に職員会議で話し合いを行っている。転倒・転落リスクの高い利用者様は御家族と話し合い、拘束せずに最善のケアに努めている。人感センサーを設置している。	玄関からホールに繋がる引き戸は施錠している。職員会議で身体拘束やスピーチロックについて話し合い、勉強会を開いている。日常から声の大きさに配慮しているが、指導を受けることもある。	玄関の施錠は身体拘束にあたるので、職員が協力し合い、利用者を見守りながら、玄関、ホールへの扉を開錠できる時間帯を作る取り組みをしてはどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待について勉強会を行っている。アザやケガがあった場合、原因究明に努めている。職員同士で注意し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象の方はいらっしゃらないが、会議などで勉強会を定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族関係者には十分な説明を行い、不安や質問には一つ一つ丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症の対策を行い、面会を行っている。	外に行きたいと言う利用者には、コロナ禍の状況を説明しつつ、デッキを利用して外に出る等都度工夫ある対応をしている。家族には面会時に意見を聞いているが、アンケートの再開を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、申し送りに業務日誌を活用して、意見交換・情報の共有をしている。	月1回職員会議を開き、利用者への対応について話し合い、提案を試行し支援に反映させている。会議以外の場でも職員は自分の意見を言える雰囲気があり、職員との面接も予定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、目標に対して自己評価を行い、管理者・本部担当者が結果をフィードバック、面談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会議を実施している。 ホーム内での介護者の良いところは皆で学ぶようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス流行の為、他のホームと交流はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様や、関わりのあったサービス担当者から情報収集を事前に行い、ご本人がどのような問題を抱えているか考え、求めているか予想し、スムーズな関係が作れるようにしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、家での様子を伺いながら、ホームに望むことを聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に面談を行い、どのようなサービスが提供出来るか、適切であるかを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御家族様からの情報や、日常の会話の中から、昔行っていた事や得意な分野をホームで実践していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡の時など、日常生活の様子を伝え関係が途切れないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染症の対策を行い、面会を再開させている。知人が面会に来ていただきやすい環境を作り、関係が維持できるように心がけている。	コロナ禍で制限がある中、玄関先、窓越しでの面会を実施している。LINE登録した家族には写真を送信し、3ヶ月毎にお便り「ひのきファミリー」で利用者の様子を伝え、関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者と関わりあえる時間を多く築き、体操・レクなど提供。トラブル時には、職員が間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望などがあれば、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活習慣を把握し、日常の関わり合いから思いや意向をくみ取り、困難な時は家族と相談し対策を考えている。	入居前の暮らしを家族から聞いたり、入居時の書類、また日常の関りを通して利用者の意向や思いを把握し、課題に対してどのようなサービスを提供していくか話し合い、プランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や以前使っていたサービス担当者から話を聞き、それを基に関わり、趣味や得意な事を生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを大切に、毎日の声掛けを日頃から行いながら変化に気付けるよう、バイタル・食事・表情など現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族の希望を聞くようにし、現状に即した計画を作成している。	3ヶ月毎に介護計画を見直し、職員は介護計画をケア記録に添付し、カンファレンスで読み合わせをしている。モニタリングは毎月行い、現状に合った介護計画に基づいた支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状態や要望に応じた支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが緩和されたため、地域の行事を調べて行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、ご本人・御家族様の意向を確認している。ご希望に合わせて、かかりつけ医を決定している。	入居時に主治医の確認をしているが、殆どが協力医の往診を受けている。専門医への受診には家族が付添い、コロナ禍でも継続していた。、歯科は必要に応じ訪問診療を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している看護師の訪問が週1回あり、健康チェックを行っている。 状態変化時は24時間体制で連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の状態について電話で情報収集・意見交換をし、現状の把握や退院日程の調整を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針について、入所時に御家族に説明し同意を得ている。状態の変化時もその都度確認し、ご本人や御家族の思いを大切に支援している。	法人の指針に沿って、利用者、家族に希望があれば主治医の判断によって看取りを実施している。現在利用者1名が訪問看護の支援を受け看取りの状態にあり、家族の入室、面会を許可している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	週1回ホームにあるAEDの点検を行っている。自主訓練で、AEDの使い方を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行う昼夜想定での通報・避難・消火の総合訓練のほか、毎月自主訓練を行っている。火災通報装置には区長様・民生委員様に協力して頂き、連絡を取れるように登録してある。	年2回、隣接する施設と合同避難訓練を実施し、毎月自主訓練をしている。火災通報装置に区長、民生委員の連絡先を登録し緊急時に備えている。食糧品、水等の備蓄とコンロの用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を大切に言葉使いや対応を心がけている。気になったところがある時は、職員同士で注意し合っている。個人情報・秘密保持を徹底している。	利用者のその人らしさを大事にしている。言葉遣いを特に気にする利用者には配慮ある話し方を心がけている。利用者間の相性や利用者が好む生活スタイルを尊重した支援に取り組んでいる。	異性介助になる場合は、事前に「自分で良いですか」と了承を得るようにして、利用者の尊厳を守ろうとする思いが伝わり、信頼関係を築くことができるのではないか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いが言いやすくなるような声掛けや、会話の中でくみ取り、職員だけの考えで決定せず、本人で決めたり納得して生活出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの生活リズムはあるが、個人の体調や気分に合わせて強制はせず生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服や、起床時には整容の声掛けをして必要な方には介助にて行っている。定期的な訪問理容にて、散髪・カット・カラー等の個人の希望に答えて貰えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様からの声かけにて、時々お手伝いして頂いています。	木・金曜日は食材が届き、他は職員が献立を考え買い物に行き、手作りの食事を提供している。行事の時は、利用者が時季を感じられるようなお楽しみ献立をキッチン担当者が考え提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを毎食行い、摂取量が不十分なときは好みのものを提供している。おかゆや刻みなど、その人に合った形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一人一人に声掛けをし、必要に応じて介助にてケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関して記録をして、排泄のパターンを把握。トイレを探している様子が見られたら声掛けを行い、時間で誘導している。	自立者にはトイレでの排泄を支援している。尿意、便意のない利用者が多く、誘導後はトイレ内でパット交換している。車椅子の利用者であってもトイレに向かう様子があれば声をかけ、誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に食事などの時声掛けをして、水分を多く取って頂く。 毎日体操を日課としている。 乳製品を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の意思を尊重し、拒否のある方には声掛けを工夫したり、別の職員が対応したりしている。	月～土曜日の午後実施し、利用者は最低でも週2回入浴している。職員は利用者とは1対1になる介助の際のコミュニケーションを大切に、ケア記録に残してプランに繋げている。	前日に入浴した利用者にも「今日、入りますか」と声かけをし、いつでも入浴できることが利用者に分かり、本人が入る、入らないの選択をする機会を作ってはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に休めるよう室温の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧を一冊にし、最新の用紙にいれかえ、変更時や注意すべき薬はきちんと申し送りをして服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意分野のお手伝いをお願いしている。 レク・体操など楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については現在コロナウイルス流行により行えていない。	コロナ禍で外出はできなかったが、デッキを利用して体操後に外気浴をしたり、お茶会をして気分転換を図っている。また、家族と受診に出かけた際に外食をする等、外出の機会を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてホームで管理し、都度職員が代理購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった場合、御家族に電話をかけお話しして頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には、その月に行った行事の写真や、季節に合った作品作りした物を掲示している。	ホールには時計、カレンダー、献立ボードがあり、壁面には四季折々の飾り物、行事の写真、これまで手作りしてきた作品が掲示され、利用者に思い出や話題を提供する工夫をしている。	見当識障害等の認知症状がある利用者に対して、混乱が生じないよう時季に合った掲示物や物の設置位置を工夫し、大人らしい空間作りに取り組んではいかかが。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは利用者様同士で話しをしたり、テレビを見たり、新聞を読まれたり、ソファでくつろいだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、仏壇や家族の写真などが持ち込まれ、今まで居た空間を取り入れ本人が心地よく過ごせるように工夫している。	居室には化粧の為に使った鏡台や祖先を守る為の仏壇、ベッドからの落下に備えたマット等を持ち込んでいる。一見簡素ながら、清潔感があり自分らしさのある居室にまとめられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すりの設置やバリアフリーなど工夫している。滑りにくい靴を履いていただいている。		